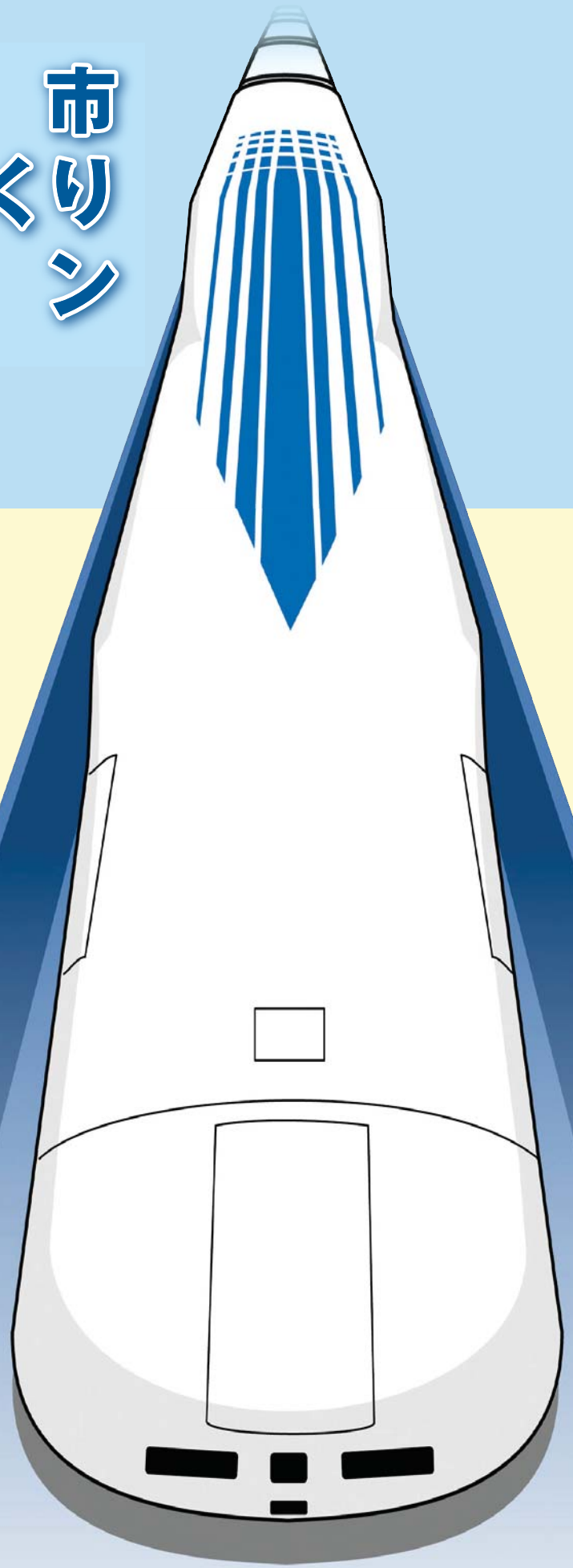


# 中 津 川 市 リニアのまちづくり ビジョン

概 要 版

LINEAR CHUO SHINKANSEN



平成25年8月  
中 津 川 市



## 市長あいさつ ～市民みんなで取り組むリニアのまちづくり～

私たちのまち“なかつがわ”にリニアがやって来ます。市内にリニア駅ができることにより、品川まで約1時間、名古屋まではわずか13分程度と交通の利便性が飛躍的に高まるとともに、私たちの暮らしも大きく変わることが予測されます。

私はリニアを活用することで、子どもからお年寄りまでがこのまちに住みながら多くの選択肢の中から好みのライフスタイルを見つけ出し、一人ひとりが人生を楽しめるようなまちづくりを目指しています。そして、若者が市外へ出なくても、ふるさとでいきいきと暮らし、働けるまちにしていきたいと考えています。

そのためには、豊かな自然、歴史文化、産業、人材など、本市の持つ優れた地域資源をさらに磨いていくことが重要です。これに加え、本市には新たに、世界に一つしかないリニアの車両基地という産業・観光の目玉も生まれます。まずはこれらを活用して、全国、全世界からリニアを使って時速500kmで本市を訪れた方々に、時速3kmでゆっくりと歩いて楽しんでいただき、本市のファンになっていただくことが必要です。そして、そこから産業振興、企業誘致、雇用拡大、移住・定住などの幅広い分野で地域の活性化につなげていくことが可能であると考えています。

また、「リニアのまちづくり」を成功させるには、関係団体や地域・地権者の皆さまをはじめ、市民一人ひとりのご理解とご協力が不可欠です。これから各事業が具体化するに従い、市民の不安や多くのクリアしなければならない課題が生じることも予想されますが、これらに真摯に向き合い、丁寧なご説明を行いながら「リニアのまちづくり」を市民の皆さまと一緒に進めていきたいと考えています。

本ビジョンの策定に際し、15ヶ月の間に延べ21回もの協議を重ねていただいた中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会、幹事会、地域委員会、女性・若者委員会の皆さま、各地域でリニアを活かした地域づくりについて検討していただいたまちづくり協議会などの皆さま、アンケート調査にご協力いただいた市民や企業、国・県や関係団体など、多くの皆さまのご協力に深く感謝を申し上げます。

平成25年8月

中津川市長 青山節児

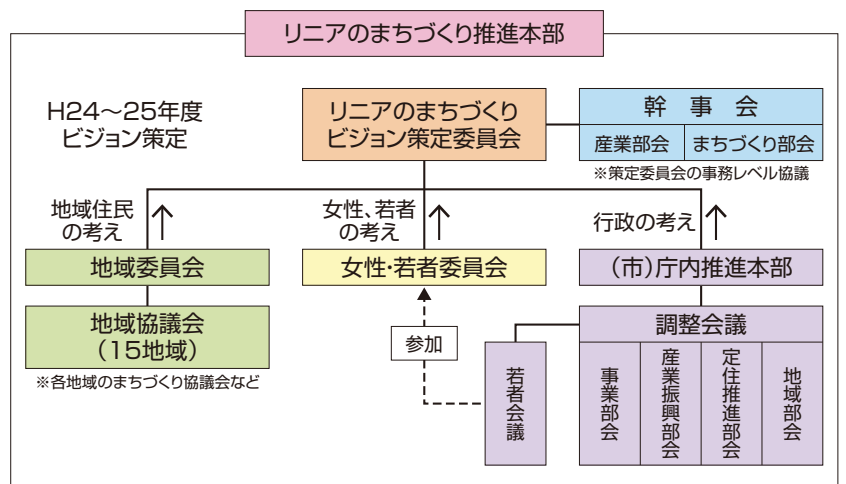
## ビジョン策定の趣旨と目標年次

本市は、リニア中央新幹線の駅が設置されることにより首都圏や大阪都市圏と直結し、全国各地と短時間で往来できるようになります。これは単に交通が便利になるだけでなく、暮らしの幅を広げるとともに、交流を増大させることにより産業の活性化に大きく寄与するものと思われます。加えて、車両基地の設置による市の知名度アップ、企業・機関の立地促進や雇用の拡大などへの期待が大きく膨らみます。

人口減少、少子高齢化という厳しい時代を迎えるなか、千載一遇のチャンスであるリニア開業をまちづくりに活かし、持続的に発展する中津川市をつくっていかなくてはなりません。また、「1県1駅」の方針のもと、駅が立地するまちとしてリニアの波及効果を県全域はもとより県境を越えた周辺地域に行きわたらせる広域的な役割があります。そのため、リニア時代を見据えたまちづくりの考え方や施策の方向を示し、官民一体となった取り組みを進めることを目的に、市民、経済界、国・県など各界各層の参画を得て、本ビジョンを策定しました。

本ビジョンの目標年次は、大阪開業5年後の2050年とします。施策の展開については、開業効果なども見極めながら段階的に進めるとともに、将来にわたって本市の魅力や暮らしやすさを高めていけるよう50年、100年といった長期的な視点で取り組んでいきます。

■リニアのまちづくり組織図



出典：当社が用意する中央新幹線の中間駅のイメージについて(2013年5月13日・JR東海) ※1  
中央新幹線(東京都・名古屋市区間)環境影響評価方法書【岐阜県】(2011年9月・JR東海) ※2、3  
熊本総合車両所パンフレット(JR九州) ※4

## リニア中央新幹線事業の概要

リニア中央新幹線は、2027(平成39)年に東京-名古屋間が先行開業し、さらにその18年後の2045年に東京-大阪間の全線が開業する計画です。

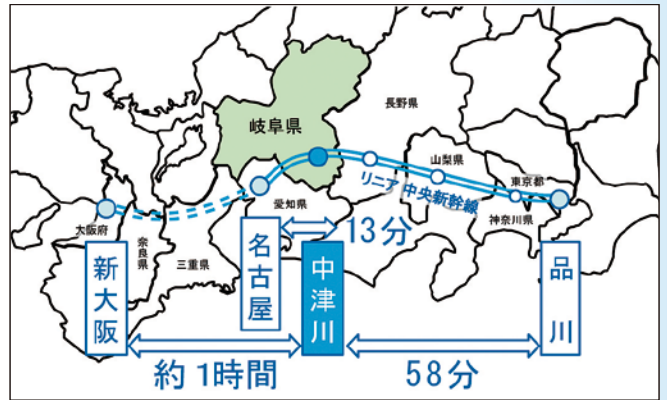
### ルートと所要時間

東京都-名古屋市間の想定ルートは、品川駅を起点とし、山梨実験線、甲府市附近、赤石山脈(南アルプス)中南部を経て、名古屋駅附近に至る全長約286kmです。

本市内では、トンネルで恵那山の北側を抜け山口地区に入り、木曾川を橋りょうで渡り、苗木地区を経て再び木曾川を橋りょうで渡り、中津西地区から坂本地区を通過し、恵那市に至ると考えられます。

リニアにより、中津川-東京間の所要時間は58分(約1時間40分短縮)、中津川-名古屋間は13分(約40分短縮)と大幅に短縮され、首都圏や名古屋がとても近くなります。

※所要時間は岐阜県リニア活用戦略(一次案)を参考に中津川市推計

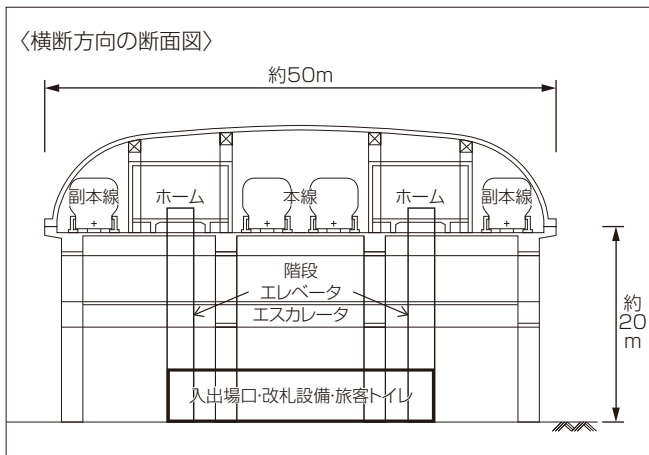


### リニア駅のイメージ

リニア駅は、沿線となる1県に1駅設置される計画で、岐阜県では、本市西部が候補地に選定されています。

本市に設置される駅は地上駅で、軌道までの高さが約20m、敷地として延長約1km、最大幅約50m、面積約3.5haと想定されています。

■地上駅のイメージ図 ※1

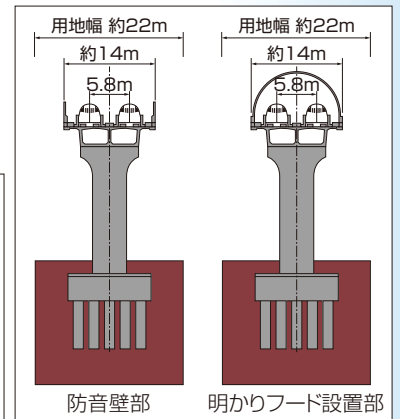


### 高架橋・トンネルのイメージ

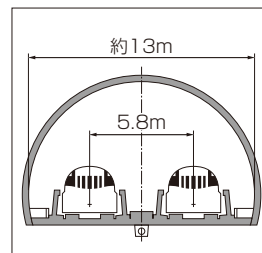
本線の高架橋、橋りょうは、用地幅約22m、構造物の幅は約14mで、場所によって左右を防音壁のみで囲うものと、フードによりすべて覆ってしまうタイプの2種類とされています。

また、山間部を多く通過するために8割以上がトンネル区間となり、トンネル断面積は既存新幹線よりやや大きめです。

■高架橋の標準的な断面図 ※3



■山岳トンネルの標準的な断面図 ※2



### 車両基地(工場機能を含む)のイメージ

本市に設置される車両基地には、仕業・交番検査を行う「車両所」機能の他に、全般検査、車両の改造・修理などを行う「工場」機能が含まれ、規模は延長約2.5km、最大幅約500m、面積約70haと広大な施設が計画されています。

車両基地には大きな波及効果が期待され、JR東海の東海道新幹線浜松工場では約1,500人、JR東日本の新幹線総合車両センター(宮城県利府町)では約1,200人が働くなど、多くの雇用を生み出すとともに、見学会には多くの人が訪れています。

■九州新幹線熊本総合車両所全体イメージ図 ※4



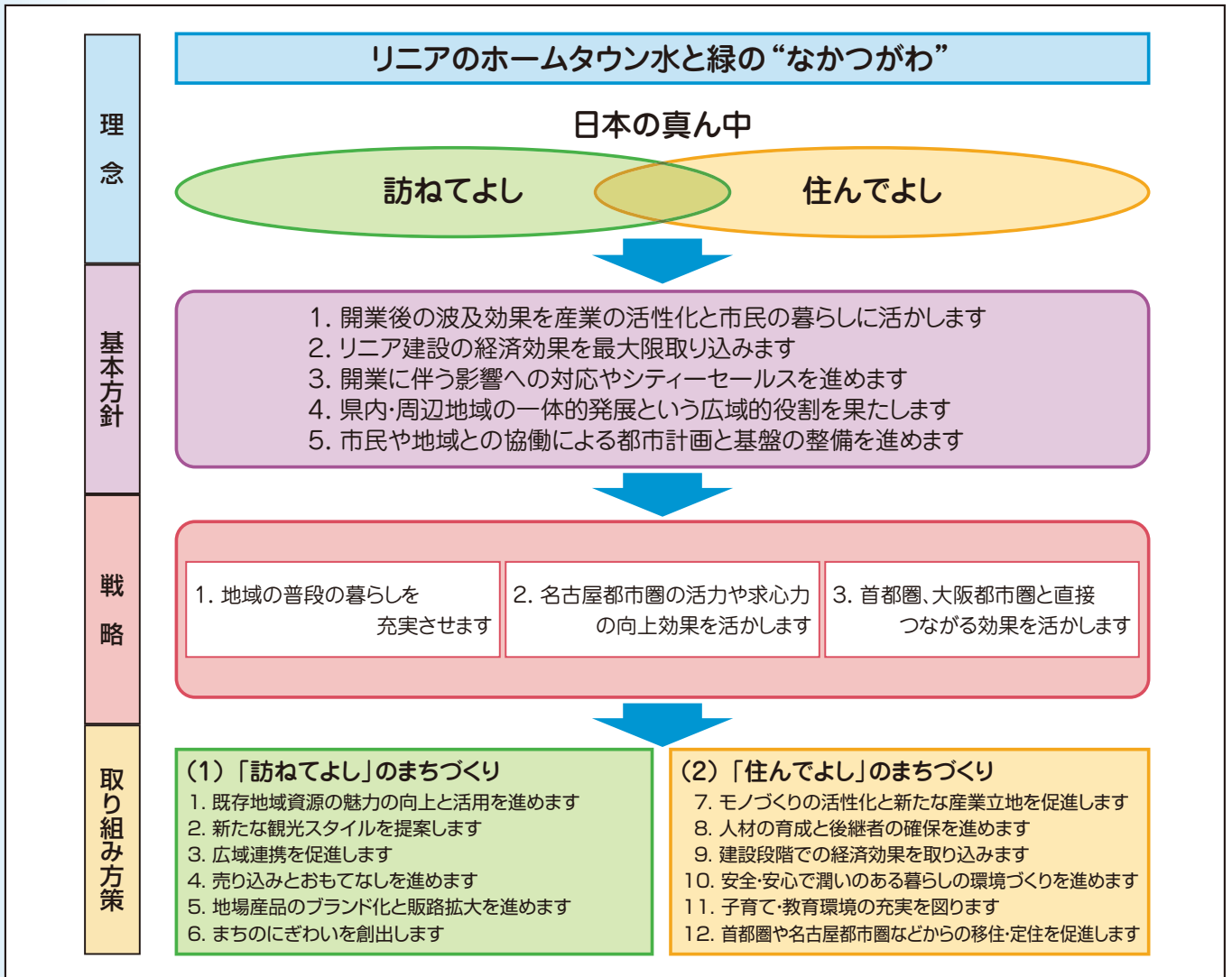
# リニアを活かしたまちづくりの方向と取り組み

## まちづくりの理念・基本方針・戦略・取り組み方策

リニアにより、本市は首都圏・大阪都市圏という二大都市圏のちょうど真ん中に位置することになり、その地理的優位性や車両基地の設置と相まって、観光、産業、雇用や定住など幅広い分野の可能性が広がります。

その可能性をプラスの波及効果に変換し、市全域の活性化につなげていくため、地域が持つ豊かな自然、産業、歴史文化、人材といった地域資源に磨きをかけ、外の地域から人やモノを呼び込んで、多くの人々が訪れ活気とにぎわいのある「訪ねてよし」のまちづくりを進めていきます。

また、リニアのもたらす効果を暮らしの利便性やビジネスなどに役立てるとともに、広い地域からの移住・定住や二地域居住などを促し、市民誰もが多様なライフスタイルを実現できる暮らしやすく潤いのある「住んでよし」のまちづくりを進めていきます。

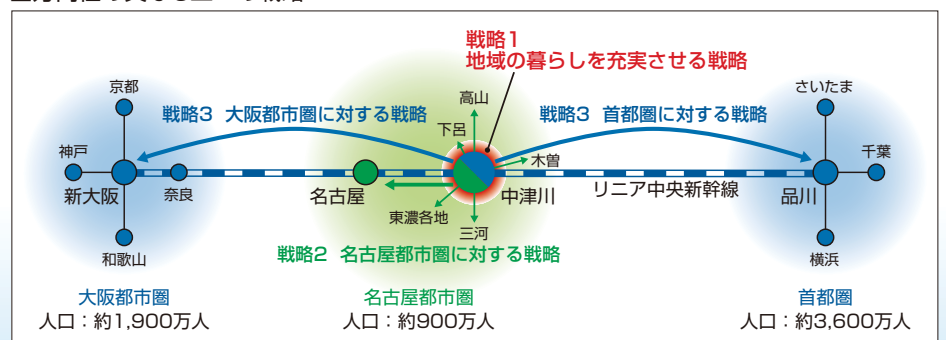


本市には、リニアにより「①地域構造の変化」「②名古屋都市圏と一体となった発展」「③首都圏・大阪都市圏との直結による新たな可能性」の三つの大きな変化がもたらされます。

市民がリニアの波及効果を肌で感じるためには、普通の暮らしがより便利で潤いあるものになるような戦略が必要です。また、外から人やモノを呼び込むには、ターゲットごとに異なる特性、ニーズにマッチした戦略が必要です。

こうしたことから、方向性の異なる三つの戦略を据え、効果的な施策の展開を図っていきます。

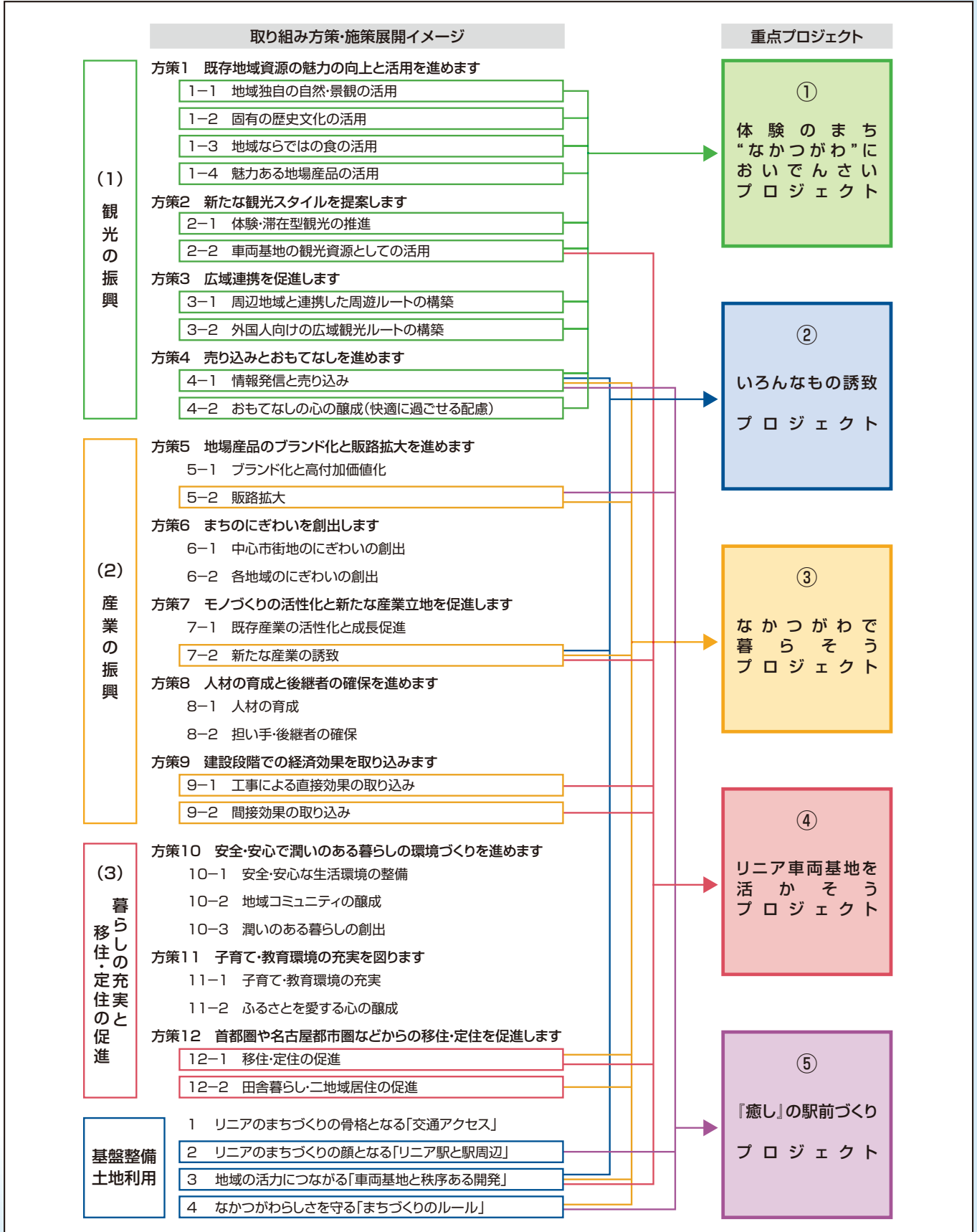
### ■方向性の異なる三つの戦略



## 取り組み方策・施策の展開イメージと重点プロジェクト

リニアの波及効果を活かすための取り組みは多岐にわたりますが、効果を高めるには個々の施策を単独で展開するのではなく、戦略的に結び付けることが大切です。そのため、先行的、優先的に進める施策をパッケージ化し、「市民みんなで取り組む重点プロジェクト」と位置づけ、市民一丸となって取り組みを進めていきます。

プロジェクトの①～③では、交流の促進による地域活性化の観点から、「体験・滞在型観光の推進」、「多様な機能の誘致」、「移住・定住、二地域居住の促進」を進めます。また、④では、新たな地域資源を活用するという観点から「車両基地の活用」、⑤では、シンボルとなる駅をつくるという観点から、豊かな自然や景観に恵まれた「癒しの駅前づくり」を進めます。



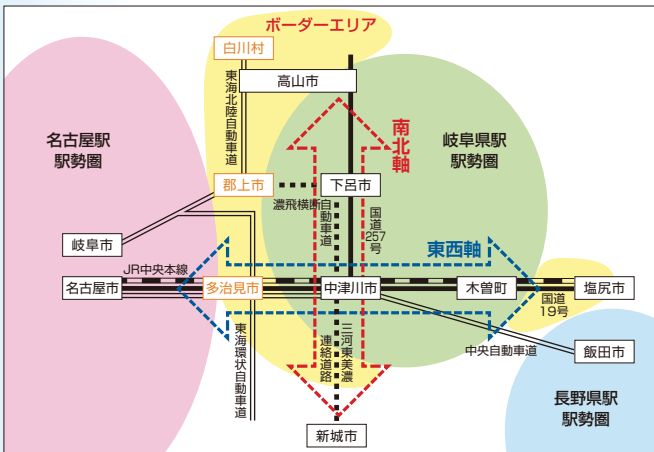
# リニアのまちづくりを支える基盤整備と土地利用

## リニアのまちづくりの骨格となる「交通アクセス」

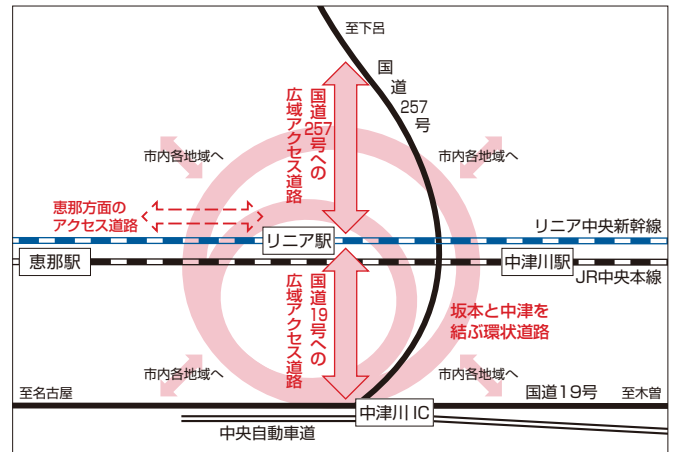
リニア駅には、周辺地域の活性化という広域的な役割があることから、より広い地域のより多くの人に駅を利用してもらい、駅と周辺地域がスムーズに行き来できるような交通アクセスを確保します。整備にあたっては、地域の声に耳を傾けながら、駅利用者だけでなく地元の人たちにとっても便利で・使いやすく・安全で、なおかつ環境や暮らしに溶け込むものにしていきます。

「より広い地域」の「より多くの人」にリニア駅を活用してもらうための交通アクセスの整備  
 「道の未来は生活の未来」、駅を利用する人と地域の人と一緒に快適な交通アクセスの整備

■広域道路網とリニアの駅勢圏



■リニア駅周辺の道路イメージ

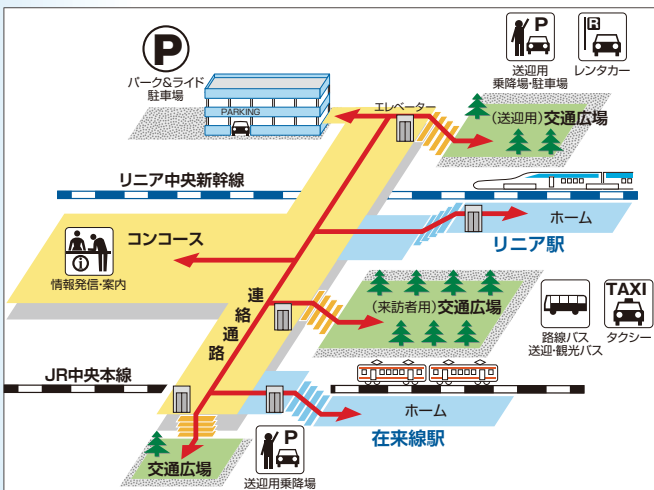


## リニアのまちづくりの顔となる「リニア駅と駅周辺」

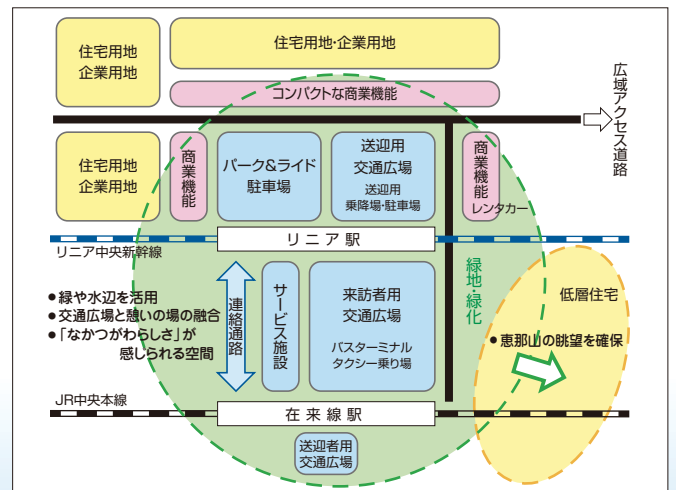
リニア駅は、「岐阜県の東の新しい玄関口」であり、癒しを求めて都会からやって来る人たちをあたたかくお迎えできるよう、「なかつがわらしさ」を前面に出した「癒しの非日常空間」を彷彿させる空間をつくっていきます。また、コンパクトな空間に必要な機能を凝縮した便利で利用しやすいリニア駅と駅周辺にしていきます。

豊かな自然、文化や景観など「清流の国ぎふ」「なかつがわらしさ」が感じられる  
 「リニアのまちづくりの顔」となる駅と駅周辺  
 交通結節点として便利で利用しやすく、必要な機能がコンパクトにまとまった駅と駅周辺

■駅および交通広場に必要機能とイメージ



■駅周辺に必要な機能とイメージ



※リニア駅の位置をJR美乃坂本駅の周辺と仮定したイメージ

## 地域の活力につながる「車両基地と秩序ある開発」

リニアによる交通利便性や車両基地を最大限活かし、市全域で企業誘致や定住推進など地域の活性化に取り組んでいきます。用地などの確保にあたっては、できるだけ、これまでに整備された社会基盤（既存ストック）や民間活力を活用するとともに、先行投資型でない需要に応じた供給体制（オンデマンド型）を整えながら、秩序ある開発・斡旋を行っていきます。

リニアの交通利便性や車両基地を活かし地域特性にマッチした秩序ある開発  
既存ストックや民間活力も活用した先行投資型でないオンデマンド型の開発・斡旋

## なかつがわらしさを守る「まちづくりのルール」

地域の活性化のためにも地域のまちづくり方針にマッチした必要な開発については進めていきますが、これと併せ、豊かな自然、文化や景観などの「なかつがわらしさ」を守っていかなくてはなりません。そのため、都市計画や景観計画、自然・環境・農地などにおける現行の規制を活用しながら、リニアのまちづくりを行っていくうえで必要な新たなルールづくりについても検討していきます。

「つくるものはつくる・守るものは守る」という明確な意志とルールに基づくまちづくり  
現行の規制を活用しながら足りない部分について新たなルールづくり

■東口来訪者用交通広場イメージ



■西口送迎用交通広場、パーク&ライド駐車場イメージ

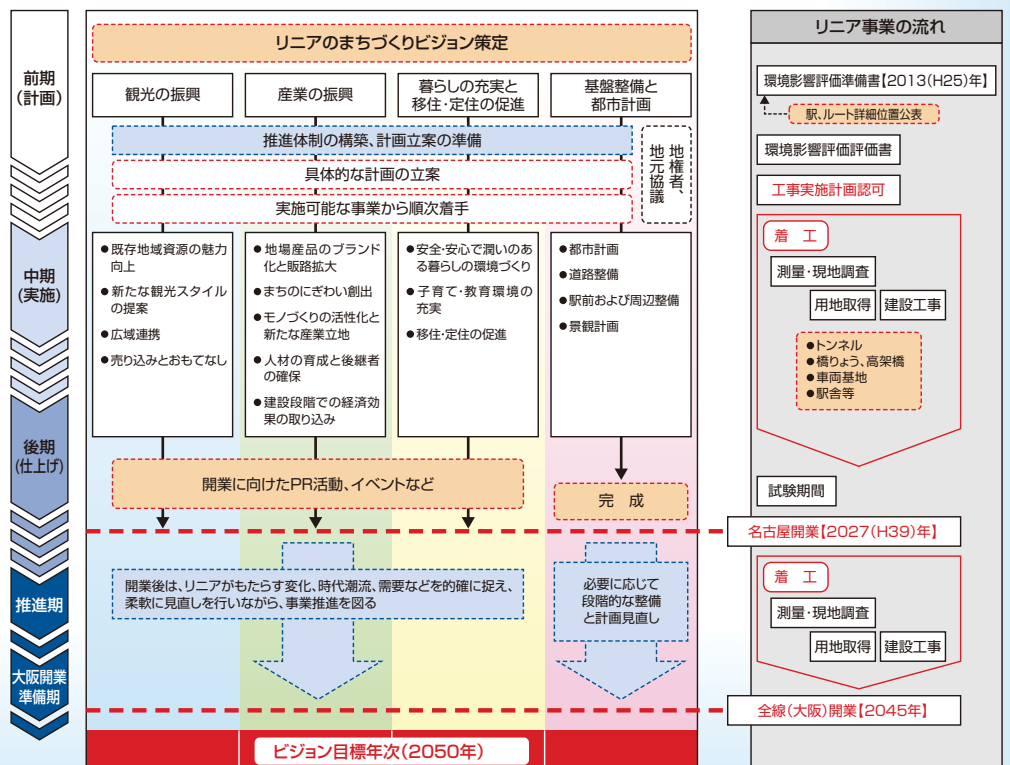


## 今後の取り組み

本ビジョンに示したリニアのまちづくり、各分野における様々な取り組みを実現するためには、これを強力に推し進めるための行政組織の充実と、行政・民間が協力してしっかりとした推進組織を立ち上げ、連携を図りながらそれぞれの立場で主体的に取り組むことが必要です。

また、周辺地域の一体的な発展に向けて、周辺地域との連携も重要です。

なお、具体的な組織案、連携方法、各事業の進め方などについては、本ビジョンの次のステップである分野ごとの具体的な計画立案のなかで検討していきます。



# リニアのまちづくりに向けた各地域の取り組み方針

リニアの波及効果を市内全域で享受するためには、それぞれの地域が主体的に積極的な取り組みを展開していかなくてはなりません。そのため、市内15の地域が、現在の地域づくりビジョン・計画をベースに、地域が抱える問題点や課題を整理し、リニアの波及効果を踏まえた新たな視点で地域づくりのアイデアを検討しまとめました。

## ① 中津西地区

- 利便性の高い住環境を活かした移住・定住の促進
- 根の上高原などの豊かな自然と中山道の景観を活かした観光振興

## ② 中津南地区

- 豊かな自然と利便性の高い住環境を活かした移住・定住の促進
- 恵那山などの豊かな自然と中山道中津川宿の街なみや伝統文化を活かした観光振興

## ③ 中津東地区

- 中心市街地の利便性の高い住環境と防災意識の高い地域性を活かした移住・定住の促進
- 中山道中津川宿の街なみと伝統的な和菓子を活用した観光振興

## ④ 苗木地区

- 地形的・地理的優位性を活かした移住・定住の促進
- 苗木城跡など豊富な観光資源を活かした観光振興
- 瀬戸の筍などブランド農産物を活かした農業の振興

## ⑤ 坂本地区

- リニア駅および車両基地を活かした移住・定住の促進
- 坂本の自然景観、中山道の歴史遺産を活かした観光振興
- 中核工業団地やリニア車両基地、優良農地を活かした農業をはじめとする地域産業の振興

## ⑥ 落合地区

- 豊かな自然や交通利便性の高さを活かした移住・定住の促進
- 中山道落合宿の歴史遺産を活かした観光振興

## ⑦ 阿木地区

- 豊かな自然とリニア駅が設置される坂本地区への近接性を活かした移住・定住の促進
- 中の島公園などの豊かな自然と地域の歴史文化を活かした観光振興
- 特産品のシクラメン、ソバを活かした産業振興

## ⑧ 神坂地区

- 恵那山麓の豊かな自然環境を活かした移住・定住の促進
- 湯舟の宝(東山道、富士見台、温泉など)を活かした観光振興

## ⑨ 山口地区

- 豊かな自然や農村景観と市中心市街地への近接性を活かした移住・定住の促進
- 中山道馬籠宿を核とした観光振興
- 観光と連携した農業の振興

## ⑩ 坂下地区

- 豊かな自然と生活利便性の高さを活かした移住・定住の促進
- 椈の湖を中心とした自然環境を活かした観光振興
- 豊かな自然と恵まれた森林資源を活かした産業の振興

## ⑪ 川上地区

- 豊かな自然環境を活かした移住・定住の促進
- 夕森公園のみみじを活かした観光振興
- 道の駅、直売施設を活かした産業の振興

## ⑫ 加子母地区

- 豊かな自然環境を活かした移住・定住の促進
- 豊富な観光資源と独自の山村文化を活かした観光振興
- 恵まれた農業環境と森林資源を活かした産業振興

## ⑬ 付知地区

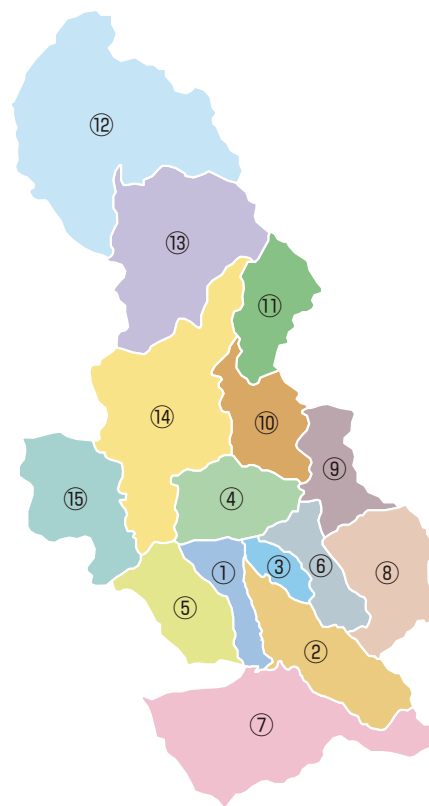
- 山里の環境と安心して暮らせる地域性を活かした移住・定住の促進
- 付知川の魅力や山里の恵み、伝統文化を活かした観光振興
- 東濃桜ブランドと木工職人の技を活かした木材産業の振興

## ⑭ 福岡地区

- 豊かな里山景観と災害に強い環境を活かした移住・定住の促進
- ニツ森山などの自然と常盤座などの歴史文化資源を活かした観光振興
- ふくおかの基幹作物を活かした産業振興

## ⑮ 蛭川地区

- 災害に強い地盤と地理的優位性を活かした移住・定住の促進
- 豊富な自然景観や伝統文化を活かした観光振興
- 蛭川みかげ石などの特産品を活かした産業振興



お問い合わせ先

中津川市企画部リニア中央新幹線推進局 リニア推進課・リニア対策課

TEL.0573-66-1111(内線323・327) E-mail linear@city.nakatsugawa.lg.jp URL <http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp>